

市民・学生・行政がそれぞれの活動を発表

2026年1月12日（月・祝）、あかし市民広場にて、第6回「明石公園みんなの未来ミーティング」を開催しました。今回のテーマは、公園の今後のあり方を市民とともに考えるもので、ポスターセッションによる取り組み紹介と、参加者どうしのワークショップ形式の談義を実施しました。あかし市民広場を会場にしたことから、飛び込みの参加者や子連れの参加者も多く、約60名でのミーティングとなりました。

未来ミーティングでは、明石公園の多様な活動を通して、公園の価値や可能性を共有する機会を設けています。前半のポスターセッションでは、市民、学生、行政機関など合計11の公園での取り組みについての発表・意見交換を行いました。参加者はコーヒーやジュースを片手に、和やかな雰囲気の中で活発に対話していました。

後半の談義では、ポスターセッションの内容を全体で共有したうえで、「こども広場の遊具更新」「樹木管理」「旧市立図書館跡地の活用」などについて意見交換しました。



談義の主な内容

こども広場の遊具更新

こども広場の遊具更新については、アンケートや専門家の意見をふまえた遊具選定が進められており、子どもたちが楽しみにしているという意見も出ました。複数の子どもが一緒に遊べる大型遊具や、暗いトンネルのような空間を好む傾向など、利用者目線の意見が多く寄せられました。

樹木の管理

樹木をどのように管理していくかは、明石公園でとても大切なテーマです。今回のミーティングでは、公園北部の森林環境の保全と安全性の両立が課題としてあげられました。常緑樹が生い茂る環境を貴重とする意見と、暗く危険だとする意見があり、明石公園における「里山的環境」のあり方について、今後、多角的な視点から検討していくことの必要性を共有しました。



旧市立図書館跡地の活用

「旧市立図書館跡地の活用」では、アクセス改善策や施設の位置づけについて意見交換しました。公園の森のなかの施設としての魅力を活かしつつ、Wi-Fi環境を整えた多世代交流の場や、子どもが遊べるワーキングスペース、多目的スポーツスペースの設置などが提案されました。

また、花と緑のまちづくりセンター内に、子育てと仕事を両立できるような居場所をつくるプロジェクトが進んでいます。2026年3月までに実験的な空間整備を行う予定です。市民と行政が協働しながら、公園の未来を共につくる取り組みが着実に進んでおり、旧市立図書館跡地に整備しようとしている施設の実験場としても位置付けることができます。

ポスター発表の一覧と概要

明石公園の生き物の繋がり 奥津 晶彦

明石公園は、駅前にありながら池や樹林、草地、石垣など多様な環境が残る公園です。本発表では、オオスズメバチを例に、生き物どうしや環境とのつながりが紹介されました。1種の生き物に目を向けることで、身近な自然の奥深さや面白さに気づけること、体験を通して学ぶことの大切さが語られました。

明石公園の里山林整備の提言をどう考えるか 柴田 剛

里山林整備は、生物多様性を守るために行われていますが、明石公園では単純な伐採や植栽が必ずしもよい結果につながらない可能性があります。本発表では、公園内に残る大きな木や倒木、樹洞などが生き物を支えている現状をふまえ、今ある樹林を大切に維持していく考え方が提案されました。

明石公園野鳥マップ〈冬編〉 岩崎 健二・田中 葉子（日本野鳥の会ひょうご）

明石公園では、冬でも多くの野鳥を観察することができます。本発表では、冬にみられる野鳥をまとめたマップが紹介されました。鳥をきっかけに、植物や昆虫、水辺環境とのつながりを知る楽しさや、自然に癒されながら学べる公園の魅力が伝えられました。

蓮（ハス）の再生 小倉 雅治

明石小学校前の堀では、かつて蓮の花が一面に咲き、多くの人に親しまれていました。本発表では、その風景をもう一度取り戻したいという思いが語られました。泥のなかから美しい花を咲かせる蓮は、人の心にも寄り添う存在です。水辺の記憶を未来につなぐ提案です。

花と緑のまちづくりセンター展示室を「集える拠点」へ 上田 隼也・三神 優子

花と緑のまちづくりセンターの展示室を、誰もが気軽に立ち寄れる「集える拠点」にしていく提案です。使い方を固定せず、休憩、作業、交流など多様な過ごし方ができる場を目指します。利用者としてだけでなく、かかわりながら育てていく市民主導の居場所づくりが紹介されました。

明石公園での活動について 縄 雄介

明石公園の自然をもっと身近に感じるため、「自然スタンプ帳」「どんぐりマップ」「自然図鑑」の3つの取り組みが提案されました。いずれも楽しみながら明石公園を知ることのできるツールです。

夏季における緑陰効果の評価に関する研究 油本陽子（兵庫県立大学大学院）

夏の明石公園における木陰の涼しさや心地よさに関する調査研究報告です。市民の協力を得て、樹木ごとの環境測定とアンケートを実施した結果、とくにウバメガシやクスノキが重要であることがわかりました。猛暑のなかでも安心して過ごせる公園づくりには、緑陰の維持が重要であることが示されました。

明石公園の森づくり 兵庫県公園緑地課

明石公園の森は、かつて里山として人の手が入ることで保たれてきましたが、近年は管理の変化により森の環境が変わってきています。本発表では、樹木の大径化や生物多様性の低下といった課題をふまえ、人がかかわりながら多様な生き物が暮らせる森を目指す考え方が紹介されました。

旧市立図書館跡地の利活用について 明石市政策局プロジェクト推進室

旧市立図書館跡地では、誰もが気軽に立ち寄り、ゆったり過ごせる交流拠点の整備を検討しています。屋内外がつながる空間や多様な使い方を想定し、市民の意見を取り入れながら、日常と活動が交わる新しい居場所づくりを目指していることを共有しました。

こども広場の遊具更新について 兵庫県加古川土木事務所

明石公園では、遊具や広場、園路などの整備を通して、より安全で使いやすい公園づくりを進めています。また、「こども広場」では、子どもから大人まで多様な人が楽しめるよう、みらいミーティングでも意見交換しながら、遊具の選定や整備計画の立案を行なっています。

明石公園の自転車利用とボランティア活動について 兵庫県園芸・公園協会

明石公園では、多くの来園者が自転車を利用しています。便利な一方で、安全な走行や駐輪のあり方が課題となっています。自転車利用について市民の意見を集め、より安心して使える公園を目指します。また、森づくり、桜守、ばら愛好会など、自然を支えるボランティア活動の様子も共有されました。